

競技運営規程

1. 本大会の運営は、この運営規程による。
2. 競技規則は、(公社)日本ホッケー協会2023年度6人制ホッケー競技規則ならびに令和5年度のスポーツ少年団・中学生(全国大会)にならう。
3. 競技時間
 - * 小学生は前後半各10分・ハーフタイム3分とする。
 - * 中学生は前後半各12分・ハーフタイム3分とする。
4. 競技方法
 - * 小学生男子の部(27チーム)
参加チームを9グループに分ける。1日目に予選リーグを実施し、2日目は各グループ第1位・第2位チームによる決勝トーナメント戦、予選リーグ敗者チームによる交流試合を行う。
 - * 小学生女子の部(16チーム)
参加チームを5グループに分ける。1日目に予選リーグを実施し、2日目は、チーム数が少ないため全チームによる決勝トーナメント戦をする。
 - * 中学生男子の部(17チーム)
参加チームを5グループに分ける。1日目に予選リーグを実施し、2日目は各グループの第1位・第2位チームによる決勝トーナメント戦をする。
 - * 中学生女子の部(20チーム)
参加チームを6グループに分ける。1日目に予選リーグを実施し、2日目は各グループの第1位・第2位チームによる決勝トーナメント戦をする。
5. 延長戦
 - ① 延長戦は行わない。
 - ② 決勝トーナメント戦において、時間内に勝敗の決しないときは、7に定めるシュートアウト(SO)戦によって勝敗を決定する。
6. 勝点制について
リーグ戦において、試合の結果勝ちチームに3点、負けチームに0点、引き分けの場合はそれぞれ各1点を与えるものとする。勝点と同じ場合は、下記の事項により順位を決定する。ただし、4チームによるグループについては(小学男女、中学女子)、変則リーグ方式のため、①と④(②と③は関係なし)の事項で順位を決定する。
 - ① 直接対決の勝者
 - ② 得失点差数
 - ③ 総得点数
 - ④ SO戦
7. SO戦による勝負の決定方法
 - ① 両チームの監督は、自チーム内よりレッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた、出場登録済みの選手の中から3名の選手(シューター)と1名のゴールキーパーを指名する。
 - ② 両チーム主将によりトスを行い、先攻後攻を決める。その後両チーム3名ずつのシューターにより交互に攻防を1巡行い(計6本)、得点の多いチームを勝者とする。
 - ③ ②の方法によって勝敗が決しない時は「サドン・デス方式」すなわち両チームが同数のシュートを行った中で最初にリードしたチームを勝者とする方式により、再SO戦を行う。この時は、最初先攻のチームが後攻となり、選手はプレー不可能な者を除き、各チームは最初と同じメンバーで行う。ただし、順序は変えてもよい。
8. その他
 - ① 選手の交代は、繰り返し何回でも行ってよいが、ジャッジ席側センターラインで行うこと。但し、ペナルティー・コーナーが与えられている間は、誰も交代できない(負傷した守備側のゴー

ルキーパーは除く)。

- ② 試合開始時点において6人の選手がそろわない場合、試合中に退場・怪我などにより1チームの人数が4名以下になった時は、その試合は没収試合とする。そのチームのリーグ戦における全試合の記録は無効とする。
- ③ 出場チームが試合開始時刻までに参集しない場合は、棄権したものとみなし、相手チームに不戦勝を与える。棄権したチームはその後の出場を認めない。
- ④ 選手が負傷により出血したとき、頭・顔にボールが当たったときは、傷の手当てが完了するまでは再出場できない。
- ⑤ 雨天、日没等、試合続行不可能な状況の場合は、競技会場・試合開始時間の変更・試合時間の短縮等大会本部の指示に従うものとする。
- ⑥ ハーフタイム中のコート内の使用は禁止する。
- ⑦ 競技進行を円滑に行うため、試合開始予定時刻の10分前にはコートに集合すること。また、試合終了後の相手チームへの挨拶はなしとする。試合チームのエントリーメンバー(選手・監督・コーチ・代表者)以外の関係者はコートサイドから観戦できる。
- ⑧ ベンチは、予選リーグにおいては「競技日程表」、決勝トーナメントにおいては、「組合せ表」の左側チームがスタンド側のベンチとする。